

長年の貢献に感謝を込めて

平成24年度つがる市表彰式

地方自治の発展や社会福祉の向上に貢献した方の功績をたたえる「平成24年度つがる市表彰式」が11月1日、生涯学習交流センター「松の館」で行われました。

今年度の受賞者は功労賞4人。式典では福島市長が受賞者一人一人に表彰状と記念品を手渡し「皆様の献身的なご尽力に心より敬意を表します。これからも豊かな経験と英知をもとに、つがる市のまちづくりのためにご協力を賜りますようお願いします」と式辞。受賞者を代表して齋藤瑞男さんが「皆様のお役に立てるよう今後ともそれぞれの分野で活動が続けていきたいと思います」と謝辞を述べました。



功労賞

市民または市に縁故の深い人で、福祉、勤業、地方自治、教育、文化などの各分野において市の発展に寄与し、優れた功績のあった人に贈られます。



加福 忠吉 氏
(76歳・木造千代町)

平成元年4月から平成24年3月まで木造町行政連絡員およびつがる市行政連絡員として23年にわたり在職し、行政運営に貢献した。



葛面 清光 氏
(68歳・森田町大館)

昭和62年7月から平成24年2月まで森田村農業委員会委員およびつがる市農業委員会委員として8期21年にわたり在職し、地域農業の振興発展に貢献した。



齋藤 瑞男 氏
(75歳・森田町森田)

平成元年4月から平成23年3月まで森田村およびつがる市の学校医として22年にわたり在職し、学校保健衛生の向上に貢献した。



帯川 俊二 氏
(61歳・稲垣町福富)

昭和62年5月から平成21年8月まで木造地区交通指導隊稲垣村交通指導隊員およびつがる地区交通指導隊稲垣交通指導隊員として22年にわたり在職し、交通安全思想の普及高揚に努め交通事故の抑止に貢献した。

思い出を振り返り、前向きに

柏広須地区で「いきいき教室」開催



お互いの思い出を振り返りながら和気あいあいと話し合う



わら細工に触れながら昔を懐かしむ

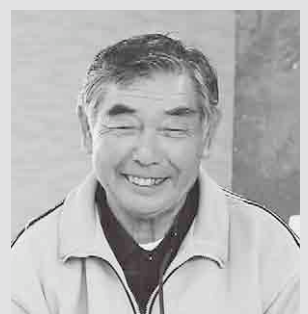


活動の写真を使って色紙作り

市地域包括支援センターでは高齢者の介護予防事業として認知症対策に取り組んでおり、今年度、9月から11月まで柏広須老人クラブとともに、過去の思い出を互いに語り合う「回想法」を取り入れた「いきいき教室」を計8回開催しました。11月2日、広須老人憩の家で行われた最終回では、参加者がこれまでの教室を振り返りました。

昔の思い出を語り、同世代の仲間とこれまでの経験を共有することでお互いを認め合い、これまでの人生を肯定的に受け止める姿勢が認知症予防に結び付くと期待されます。

経験を伝えていきたい



柏広須老人クラブ 工藤 祐一 会長

最初は、全員が最後まで続けられるか心配でした。でも終わって見たら皆さん喜んでくれたので、やって良かったと思います。

昔の遊び、食事、恋の思い出など語り合いましたが、幼小体験は、共通することあれば、違うこともあり、新しい発見がありました。

(7人という)人数もちょうど良かったと思います。教室を通して、ぎくばらんに話し合えたのでより仲良くなるとともに、自分自身の気持ちも明るく前向きになりました。

後から「教室に行きたかった」という声も聞いたので、今回の経験を地区の人たちにも伝えていきたいと思っています。

胸がほのぼのと

初回からとても楽しく次回が待ち遠しかったです。

一番印象に残っているのは、皆で稲穂いこいの里に出掛け、昔の農具やわら細工に触れたことです。馬の鞍、鋤、鍬を見て、昔、夫婦で一緒に働いたことを思い出し、とてもなつかしい気持ちになりました。集まる友人の表情がいつもより和やかで、他の人の話をほのぼのしながら聞いていました。参加して、自分自身が若返ったと思います。年に負けてられない、と前向きな気持ちになりました。

参加者同士の絆も深くなり、何でも話せるようになりました。今回体験したことを普段の生活の中でも役立てたいと感じました。



三戸 チョコ さん